

## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社  
 コード番号 9003 URL <http://www.sotetsu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 英一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営戦略室部長 (氏名) 滝澤 秀之  
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日 配当支払開始予定日 平成25年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

TEL 045-319-2043  
 平成25年12月2日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	112,220	△6.0	12,141	19.2	10,044	26.4	5,787	21.4
25年3月期第2四半期	119,340	△1.6	10,184	25.8	7,947	40.5	4,767	163.5

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 5,944百万円 (44.8%) 25年3月期第2四半期 4,104百万円 (114.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	11.81	—
25年3月期第2四半期	9.73	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	557,908	89,019	15.6
25年3月期	549,360	84,343	15.0

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 86,966百万円 25年3月期 82,288百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
26年3月期	—	2.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	229,660	△6.4	21,790	4.7	17,600	9.7	8,620	11.8	17.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	490,727,495 株	25年3月期	490,727,495 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	653,118 株	25年3月期	582,789 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	490,116,193 株	25年3月期2Q	490,156,798 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、政府による経済対策等の効果により、雇用情勢に改善が見られ、個人消費も持ち直す等、景気は回復しつつあるものの、海外景気の下振れによる影響が懸念されることから、先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢下におきまして、相鉄グループでは鋭意業績の向上に努めました結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益は1,122億2千万円（前年同期比6.0%減）となり、営業利益は121億4千1百万円（前年同期比19.2%増）、経常利益は100億4千4百万円（前年同期比26.4%増）、四半期純利益は57億8千7百万円（前年同期比21.4%増）を計上するにいたしました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## a. 運輸業

鉄道業におきましては、湘南台駅において内方線付き点状ブロックを整備し、バリアフリー化を推進するとともに、いずみ野駅のホームに待合室を新設し、サービス向上と「人にやさしい」駅づくりに努めました。また、引き続き星川・天王町駅付近連続立体交差工事を推進するとともに、JR線及び東急線との相互直通運転計画につきましても、鋭意推進いたしております。そのほか、ラッピング電車「走るウルトラヒーロー号」を運行し、あわせて記念入場券の発売並びにスタンプラリー及び写真撮影会を開催いたしました。また、「そうてつ こども駅長体験」を開催するとともに、海老名駅構内に相鉄オリジナルグッズの専門店「ぷらっと☆」をオープンいたしました。

自動車業におきましては、引き続きバリアフリー化を推進し、ノンステップバス11両を導入するとともに、パソコン、スマートフォン及び携帯電話でバスの運行情報等が検索できるバスロケーションシステムの対象路線を拡大し、サービスの向上を図りました。また、横浜駅西口～河口湖駅間を運行している高速バス路線では、夏季臨時便のうち1往復を富士山五合目まで延伸し、世界文化遺産に登録された富士山周辺への利便性の向上を図りました。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は193億1百万円（前年同期比1.9%減）、営業利益は41億4千万円（前年同期比8.4%増）となりました。

## b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、川崎市麻生区に「そうてつローゼン柿生店」を開業するとともに、三浦郡葉山町の「そうてつローゼン葉山店」をはじめ20店舗において改装等、店舗の活性化を実施したほか、「そうてつローゼン緑園都市店」をはじめ22店舗において営業時間の延長を実施し、利便性の向上に努めました。また、毎月2回開催している「ローゼン市」を毎月4回開催に強化し、収益力の向上を図るとともに、徹底したコストの削減に努めました。

砂利類販売業におきましては、競争が激化する厳しい事業環境のなか、積極的な営業活動に努めました。

更に、その他流通業におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は524億7千5百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は1億2千4百万円（前年同期比294.6%増）となりました。

## c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、横浜市保土ヶ谷区の「パークタワー横濱星川」等の集合住宅並びに綾瀬市内の早川城山住宅地及び横浜市瀬谷区の「サザンヒルズ横浜三ツ境」等の戸建住宅を中心に、集合住宅及び戸建住宅165戸を分譲いたしました。

不動産賃貸業におきましては、横浜市西区の「相鉄北幸第1ビル」を取得し、事業基盤の拡充を図りました。また、横浜駅西口の「相鉄ジョイナス」及び「ザ・ダイヤモンド」をはじめとしたショッピングセンターにおきましても、魅力あるテナントを誘致する等、収益力の向上に努めました。

なお、二俣川駅南口における市街地再開発事業の事務局業務の受託や海老名駅西口における土地区画整理事業の業務を代行し良好な街づくりを推進しております。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は300億2千6百万円（前年同期比8.9%減）、営業利益は71億5千万円（前年同期比17.1%増）となりました。

## d. その他

ビルメンテナンス業におきましては、事業者間の受注競争が激化する厳しい事業環境のなか、東京都内及び神奈川県内において新規物件を受注する等営業基盤の拡大を図りました。

「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」では、一部客室階の改修を行ったほか、さまざまなイベントを開催し、集客力や収益力の向上に努めました。

宿泊特化型ホテルを営む「相鉄フレッサイン」につきましては、9月に「相鉄フレッサイン 東京蒲田」（東京都大田区）を開業いたしました。これにより、東京都、神奈川県及び千葉県において営業する店舗は計14店舗となり、引き続き多店舗化による事業基盤の拡充と収益力の向上に努めてまいります。

以上の結果、その他全体の営業収益は163億4千5百万円（前年同期比27.4%減）、営業利益は6億9千5百万円（前年同期比217.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、固定資産の取得等により前連結会計年度末に比べて85億4千7百万円増加し、5,579億8百万円となりました。

負債は、借入金の増加等により38億7千1百万円増加し、4,688億8千8百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして3,464億4千8百万円となり、181億3千9百万円増加いたしました。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により46億7千5百万円増加し、890億1千9百万円となりました。なお、自己資本比率は15.6%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績等を踏まえ通期連結業績予想につきましては、平成25年4月26日に公表しました数値から変更しております。

売上高は、主に不動産分譲業における減収により2,296億6千万円（前回予想比1.0%減）といたしましたが、営業利益は経費の減少等により217億9千万円（前回予想比2.1%増）、経常利益は176億円（前回予想比9.5%増）、当期純利益は86億2千万円（前回予想比6.4%増）を見込んでおります。

※ 業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,753	10,783
受取手形及び売掛金	11,971	10,756
たな卸資産	29,750	28,335
繰延税金資産	1,835	1,861
その他	7,318	7,030
貸倒引当金	△579	△559
流動資産合計	68,049	58,208
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	185,649	185,300
機械装置及び運搬具(純額)	14,232	13,396
土地	221,939	240,604
建設仮勘定	7,135	8,406
その他(純額)	4,572	4,329
有形固定資産合計	433,529	452,037
無形固定資産		
のれん	2,296	2,227
借地権	3,518	3,518
その他	3,586	3,155
無形固定資産合計	9,401	8,901
投資その他の資産		
投資有価証券	8,897	9,123
長期貸付金	69	67
繰延税金資産	8,225	7,808
その他	21,430	22,013
貸倒引当金	△257	△254
投資その他の資産合計	38,365	38,757
固定資産合計	481,296	499,697
繰延資産		
株式交付費	15	2
繰延資産合計	15	2
資産合計	549,360	557,908

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,537	7,950
短期借入金	52,454	76,969
1年以内償還社債	19,850	24,850
リース債務	361	277
未払法人税等	2,517	1,844
賞与引当金	2,356	2,247
その他の引当金	519	531
資産除去債務	150	76
その他	37,446	26,388
流動負債合計	126,194	141,134
固定負債		
社債	120,195	117,770
長期借入金	135,810	126,859
リース債務	433	401
繰延税金負債	739	749
再評価に係る繰延税金負債	27,352	27,352
退職給付引当金	21,114	20,647
長期預り敷金保証金	30,060	30,827
資産除去債務	1,815	2,019
その他	1,300	1,126
固定負債合計	338,822	327,754
負債合計	465,017	468,888
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	29,919	29,919
利益剰余金	15,881	20,443
自己株式	△221	△247
株主資本合計	84,383	88,918
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,253	3,395
土地再評価差額金	△5,348	△5,348
その他の包括利益累計額合計	△2,094	△1,952
少数株主持分	2,055	2,052
純資産合計	84,343	89,019
負債純資産合計	549,360	557,908

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業収益	119,340	112,220
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	87,406	79,122
販売費及び一般管理費	21,750	20,956
営業費合計	109,156	100,078
営業利益	10,184	12,141
営業外収益		
受取利息	53	53
受取配当金	141	64
受託工事事務費戻入	110	117
雑収入	203	135
営業外収益合計	510	370
営業外費用		
支払利息	2,583	2,302
雑支出	162	165
営業外費用合計	2,746	2,467
経常利益	7,947	10,044
特別利益		
固定資産売却益	11	1
投資有価証券売却益	81	—
関係会社株式売却益	259	—
補助金	35	6
その他	—	3
特別利益合計	389	11
特別損失		
固定資産売却損	0	55
固定資産除却損	178	186
固定資産圧縮損	35	9
その他	—	3
特別損失合計	213	255
税金等調整前四半期純利益	8,122	9,800
法人税、住民税及び事業税	2,392	3,676
法人税等調整額	937	330
法人税等合計	3,330	4,006
少数株主損益調整前四半期純利益	4,792	5,794
少数株主利益	25	6
四半期純利益	4,767	5,787



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,792	5,794
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△687	150
土地再評価差額金	△0	—
その他の包括利益合計	△688	150
四半期包括利益	4,104	5,944
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,087	5,929
少数株主に係る四半期包括利益	16	14

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

「II 当第2四半期連結累計期間 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益							
(1) 外部顧客への営業収益	19,039	52,291	28,288	12,601	112,220	—	112,220
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	261	183	1,738	3,743	5,927	(5,927)	—
計	19,301	52,475	30,026	16,345	118,148	(5,927)	112,220
セグメント利益	4,140	124	7,150	695	12,110	30	12,141

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業、ホテル業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より報告セグメントを、従来の「運輸業」、「建設業」、「流通業」、「不動産業」から、「運輸業」、「流通業」、「不動産業」に変更しております。

この変更は、前連結会計年度において報告セグメントとして区分しておりました建設業セグメントについて、前連結会計年度において相鉄建設㈱の全株式を譲渡したことによるものであり、当該セグメントにつきましては重要性が乏しくなったため、当第1四半期連結会計期間より「その他」に含めて表示しております。

なお、当該セグメント変更を反映した前第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失金額に関する情報は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益							
(1) 外部顧客への営業収益	18,988	51,976	31,183	17,191	119,340	—	119,340
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	694	336	1,775	5,314	8,120	(8,120)	—
計	19,682	52,313	32,959	22,506	127,461	(8,120)	119,340
セグメント利益	3,820	31	6,107	219	10,178	6	10,184

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業、ホテル業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。